



「日没」アンリ・リヴィエール 1898年 リトグラフ フランス国立図書館蔵
(C) ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo 2009 / Cliché Bibliothèque nationale de France

フランスの浮世絵師 アンリ・リヴィエール展



国宝 北山抄(部分) 前田育徳会蔵



音色 田中太郎
親子でつむぐ22の物語



友禅日光東照宮陽明門染額 河合又吉 個人蔵
染の変遷 -生活を彩る-

オルセー美術館、フランス国立図書館所蔵

フランスの浮世絵師 アンリ・リヴィエール展

- 特別陳列 平安時代の儀式書 -重文「西宮記」・国宝「北山抄」・「江次第」-
前田育徳会尊経閣文庫分館
- 特別陳列 染の変遷 -生活を彩る- 第5展示室
- 特集展示 親子でつむぐ22の物語 第6展示室
- 特集展示 浮世絵 -夏祭りに、夕涼み- 第2展示室

- 行事予定
- 企画展 Topics
- ミュージアムレポート
- 所蔵品紹介

オルセー美術館、フランス国立図書館所蔵 フランスの浮世絵師 アンリ・リヴィエール展

主催：北陸中日新聞・石川県立美術館・石川テレビ・NHKサービスセンター
後援：在日フランス大使館・石川県教育委員会・金沢市教育委員会
NKK 金沢放送局・エフエム石川

7月24日(金)～8月23日(日)会期中無休

1F 企画展示室

◆料金

| 個人 | | 団体(前売) | |
|-------|--------|--------|------|
| 一 般 | 一 一〇〇円 | 一 般 | 九〇〇円 |
| 高・大学生 | 七〇〇円 | 高・大学生 | 五〇〇円 |
| 小・中学生 | 五〇〇円 | 小・中学生 | 三〇〇円 |

◆講演会

八月二日(日) 午前十一時

講師 飯山雅英(美術評論家)
演題 「フランスの浮世絵師」

アンリ・リヴィエールとは誰か。」

◆ロビー演奏会

八月八日(土) 十一時～、十二時～ (二回)
出演 ザツハトルテ

「京都のカフェからボンジュール」
アコーディオン、ギター、チェロの
アコースティック・トリオによる演
奏です。一階ロビーで行います。

アンリ・リヴィエール(一八六四—一九五二)は、十九世紀末に、パリを発信地としてヨーロッパに広がった、「ジャポニスム」に深い影響を受けてフランスで活躍した芸術家です。ジャポニスムとは、日本美術に見られる独特の空間表現や色彩感覚をヨーロッパ芸術に取り入れようとするもので、特に印象派とアール・ヌーヴォーの作品に強く認められます。モネやゴッホなど、日本の美術に魅せられた画家たちは数多くいましたが、リヴィエールは浮世絵風の木版画を制作するため、道具まで自ら考案したほどで、その傾倒ぶりがうかがえます。そして、浮世絵版画は、絵師、彫師、摺師の分業により作られたものですが、リヴィエールはすべての仕事をひとりで行ったのです。

北斎や広重など、浮世絵の風景画に心酔したリヴィエールは、ブルターニュ地方の風景画を多数残しています。自然の微妙な表情を、素朴で明るく美しい色彩で描き、独自の世界に昇華させました。波、雲、雪や雨などをとらえたその作風は、日本人である私たちにとっても懐かしく、親しみのある感覚を呼び起こします。ま

た、近代都市へと刻々と変貌していくパリの風景を描き、北斎の「富嶽三十六景」へのオマージュ作品として、版画アルバム「エツフェル塔三十六景」を制作しました。

二〇〇六年、アトリエで保存されていた多くの作品とリヴィエールが生前収集していた浮世絵版画が、オルセー美術館、フランス国立図書館の所蔵となりました。本展は、これらの作品を日仏で共同研究し、エツチング、木版画、リトグラフ、水彩画、ヴィンテージ写真など約一七〇点を出品する世界初のリヴィエール回顧展です。

また、リヴィエールは、日本美術をパリで紹介した画商として著名な林忠正の友人であり、林から進呈された作品や、リヴィエールが林の東京邸のために描いた油彩下絵を紹介し、その密接な交友をご覧いただきます。

リヴィエール自身は日本に大きな憧れを抱きつつも来日はかきませんでしたが、木版の特徴を生かし、共通する版画表現を展開した川瀬巴水や吉田博など、いわゆる「新版画」と呼ばれる大正から昭和初期の名品も合わせて展示いたします。



アンリ・リヴィエール
1922年



エッフェル塔三十六景：建設中のエッフェル塔、
トロカデロからの眺め 1902年 オルセー美術館蔵



金沢ながれのくるわ 川瀬巴水
1920年 山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

学芸員の眼

国宝 北山抄

前田家では歴代の藩主が文化事業に力を注いでいましたが、江戸から明治への大きな社会変革後の十六代利為侯も、書跡典籍の収集整理に尽力しました。ところが大正十二年の関東大震災に遭遇し、他家の被害を目のあたりにした事で、原本の万一の場合に備えるため、蔵書の貴重な古典籍を複製頒布する事を当初の主目的として、十五年に財団を設立しました。「尊經閣叢刊」と称して、同年から昭和二十七年までに六十四点を刊行、昭和四十八年から五十九年にかけては影印本（写真で複製印刷した本）の作成として引き継がれ、平成五年より「尊經閣文庫善本影印集成」を刊行しています。今回はこの「影印集成」の最初に刊行された平安時代の儀式書を紹介します。

儀式とは、朝廷で行う祭事、朝儀、四季の行

事などに関する形式と作法の次第を定めたもので、そのモデルは唐における礼制の集大成である礼書です。日本では七世紀以降、儀式やその典拠となる典礼が重んぜられ儀式書の編纂が行われます。平安貴族社会ではさらに重んぜられるようになり、先例を尊重し正しく儀式次第を行うことが公家としての資格に大きく関わることとなっていきます。律令政治から摂関政治への移り変わりにより、平安時代には重文『西宮記』、国宝『北山抄』、『江次第』などの私撰の儀式書が編纂されます。

日本の文化が花開いた平安時代を、儀式書という視点から十八件の作品でご覧いただくとともに、収集した五代藩主綱紀の知的好奇心を紹介するものです。（国宝・重文は会期半ばで差し替えて予定しております。）

五代藩主綱紀は、祖父利常の収書を「小松蔵書」、父光高の収書を「金沢蔵書」、自身の収書を「尊經閣蔵書」や「尊經庫蔵書」と「桑華書志」（綱紀の雑記帳）に記していますが、三人の中でも綱紀の収集は幅広く膨大であり、後世のために収集した書物の叢刊編集も計画していたようです。

このようにして収集された書籍を核として、十六代利為侯は財団を設立しますが、その際に綱紀の蔵書名「尊經閣」にちなんで「尊經閣文庫」と名付けています。この「尊經閣」の名称ですが、孔子廟に「尊經閣」という図書館が付属しており、学者綱紀はそれにあやかっただけのものと思われず、なお、綱紀の十箇条の計画「大願十事」の九番目には「先聖殿并学校造営事（孔子廟と藩校の造営）」がありました。

平安時代の儀式書

—重文「西宮記」・国宝「北山抄」・「江次第」—

7月24日(金)～8月23日(日)

会徳育田前
文庫閣經尊
分館

染の変遷 —生活を彩る—

第5展示室

7月24日(金)~8月23日(日)会期中無休

第5展示室は近現代工芸の展示室ですが、今回は江戸時代の作品も展示します。その一つ、江戸末期に作られた羽織に描かれる鳳凰は、頭部が明らかに鶏であり、下部の麒麟とともに、どことなくユーモラスな印象です。木綿のざっくりした生地、大胆な配色で鳳凰と麒麟を描き、眼の部分に金属を取り付けた、江戸時代の庶民のエネルギーを感じさせる作品です。

加賀友禅保存会の会員であった成竹登茂男は、着物だけでなくパネル作品も多く手がけましたが、今回は友禅のナイトガウンを、昭和中期の雰囲気を出した取り合わせ展示をご紹介します。また参考出品として、友禅の名匠、人間国宝・木村雨山の写生帳を展示します。草花や鳥など、創作の土台となったスケッチの数々を、作品と併せてご覧ください。

様々な色で布に美しい絵柄を染め上げる友禅染は、江戸時代前期には、その技法がほぼ完成していたと伝えられています。金沢には藩政時代以前から多くの紺屋があり、藍染や梅染、茜染などの無地染が染められていましたが、加賀藩の文化政策によって、友禅染がさかんにおこなわれるようになり、その技術はより一層、研鑽されました。その後、明治維新や幾度かの戦争を経て、浮き沈みはありましたが、この伝統は現在にいたるまで受け継がれ、県内には多くの染色作家が活躍しています。

今回は石川県に伝わる江戸時代の優品から、現代の名工の作品までを取り合わせて展示します。昭和期、戦後以降の作品については、展覧会出品という発表の場が生まれ、和洋折衷の生

活が根付いたことから、工芸作品は大きく変貌しました。着物制作を主体とした伝統的な加賀友禅は、石川県において重要な位置にあります。今回の展覧会では、工芸というジャンル自体がたどった、模索の跡を呈示する作品を中心に展示します。

屏風や掛軸からパネルへ、着物から洋装へといった作品形態の変化は、日本古来の生活様式に合致したことから、現代の生活に共存する美術工芸品のあり方の変化とも言えるでしょう。

作品には確かな技術が受け継がれ、さらにそれぞれの作者による創意工夫が加わっています。本展では、染色作品の技術や意匠の変遷をたどりながら、人々の生活をさまざまなかたちで彩る、染の作品を紹介します。



友禅婦人室用衝立 中山修三



友禅鳳凰麒麟文羽織

学芸員の眼

鑑賞のツボ



沈金猫文「けはひ」飾篭 前 大峰



占 坂根克介

毎年恒例の夏休み展示「夏休み 親子で楽しむ美術館」。今年は「親子でつむぐ22の物語」と題して絵画、彫刻、工芸の各分野から二十二の作品を展示します。鴨居玲の『蛾と老人』や、前大峰の『沈金猫文「けはひ」飾篭』など、作品はいずれも物語性やテーマ性のあるものを選び、親子で作品を前に対話を広げられるような内容にしました。

言葉の端々に普段子ども達が感じていることや、日常の様子が垣間見られるかも知れません。今回の展示では、子どもの目線にあわせて作品の位置をいつもより低めに展示します。工芸作品を収める展示ケースの前には踏み台も用意します。これを機会に、子ども達が美術を味わうことの楽しさを覚えて欲しいと思います。そして、この日の展示室での対話が、親子にとってかけがえのない思い出になれば幸いです。

用意されたセルフガイドや、作品の近くに掲示してあるキャプションを鑑賞の入口に、親子で作品に秘められた物語やメッセージを自由に感じたり、読みとったりしてみましよう。

油彩画……雲をたべた男 大場 吉美
日本画……占 坂根 克介

対話の糸口は「何が描いてあるかな」この簡単な一言から始まります。そしてどんどん広がる対話。そこから得られる答えは十人十色です。正解などありません。きっと子ども達は大人では思いもよらないような、意見や見かたを教えてくださいましょう。また、作品を語ることは自分を語ることに通じます。対話の中に現れる

主な作品
彫刻……夜行バス 木村 珪二
漆工……沈金猫文「けはひ」飾篭 前 大峰
染織……古代を憶う 堀 友三郎
版画……めいわく相 歌川 国貞

今回、ワークシートを通して体験して貰おうとしているのが対話型鑑賞です。ファシリテーター（促進者）が鑑賞者の意見を吸い上げ、複数の意見を交換していきます。これはニューヨーク近代美術館の講師、アメリア・アレナスの手法をもとにしたもので、多くの美術館や美術教育関係者に支持されています。アレナスは、その効用は情緒や感性といった曖昧な概念でなく、具体的であり、「美術鑑賞は観察力を高め、観察を系統立てて思考にまとめる能力を、そして思考を言葉に表現する能力を育てる。」と述べています。

成功のポイントは①子どもの意見を受け入れる②子どもの意見からはじめる③良さをみつける④ほめる⑤ともに喜びともに楽しむ。

お父さん、お母さんがファシリテーターです。さあ、一緒に対話型鑑賞を始めましょう。

夏休み 親子で楽しむ美術館

親子でつむぐ22の物語

7月24日(金)～8月23日(日)会期中無休

第6展示室

8月の行事予定

第2展示室

浮世絵 — 夏祭りに、夕涼み —

7月24日(金)～8月23日(日)会期中無休

江戸の人々のさまざまな姿を伝えてくれる浮世絵ですが、今回の特集展示では、夏の風物が描かれた浮世絵を集めてご紹介いたします。日本一の花火が空を彩る両国橋、浴衣姿の女性たちが涼む隅田川など、夏の賑わいをお楽しみください。

◆夏の装い

江戸の人気の美女たちも、暑さには敵いません。浴衣の腕をたくし上げ、時には胸もはだけ、肩まで見えるその姿は、勇ましくも艶かしい。手に持つ団扇の模様もそれぞれで、流行のこうもりや紋尽くしなど、どれひとつとして同じものはありません。女性たちの浴衣姿は、我々の眼を楽しませてくれます。

◆朝顔

この時代、夏の観賞用植物として大流行したのが、朝顔です。様々な品種が並ぶ朝顔市は、江戸

の夏の風物詩となりました。人気の朝顔は、涼やかな着物の模様や、夏を彩る役者の背景として、浮世絵にもしばしば登場します。

◆両国

隅田川に架けられた橋は、下総国と武蔵国の間を結ぶことから両国橋と呼ばれ、やがてこの一帯は、江戸随一の盛り場となります。川開きとして行われる花火は、江戸の人々が心待ちにする夏の一大イベントでした。隅田川には涼を求める人びとを乗せた屋形船が浮かび、川沿いには屋台が並びます。浮世絵の恰好の題材となった両国は、いつも溢れんばかりの人々で賑わいました。

その他、夜の庭で行われる相撲の光景や、夕立に慌てて雨戸を閉める人びと、晩夏の月と虫の音を楽しむ女性たちなど、江戸の夏の光景を描いた浮世絵を紹介します。



東都名所 両国花火の図 歌川広重

| | | | |
|--------|---------------------------|---------------|-----------|
| 土曜講座 | 午後一時三〇分 | 会場／本館講義室 | 聴講無料 |
| 22日(土) | 日本美術史11「茶の湯の美」 | 高嶋清栄 | 学芸第二課担当課長 |
| 29日(土) | 日本美術史12「古九谷への道」 | 村瀬博春 | 学芸専門員 |
| 講演会 | 午前十一時〇〇分 | 会場／本館ホール | 聴講無料 |
| 2日(日) | 「フランスの浮世絵師 アンリ・リヴェールとは誰か」 | 飯山雅英氏 (美術評論家) | |
| ビデオ上映会 | 午後一時三〇分 | 会場／本館ホール | 入場無料 |
| 2日(日) | 名画の秘密シリーズ1「オルセー美術館」 | | (50分) |
| 23日(日) | 名画の秘密シリーズ2「パリの夜と夢」 | | (50分) |
| 30日(日) | 名画の秘密シリーズ3「ルネサンスの巨匠」 | | (50分) |

伝統文化シネマ 新作上映会

日時／8月9日(日) 13時開場 会場／石川県立美術館ホール
内容／講演「大西芸術と漆塗り技術について」

講師／柳橋 眞氏 (金沢美術工芸大学名誉教授)
映画「うつわに託すー大西勲の髹漆ー」

入場料／無料 申込不要
主催：財団法人伝統文化振興財団、石川県立美術館 後援：文化庁、社団法人日本工芸会

アンケートより

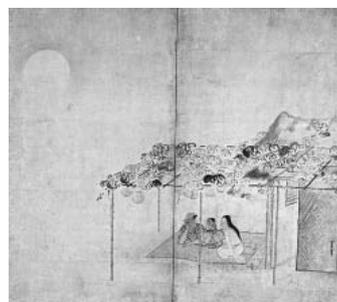
企画展、コレクション展それぞれアンケートを実施しています。お褒めの言葉であったり、注文やご指摘であったりと様々な声をいただいています。カードや文字の大きさなどのご要望にはすぐに対処してきましたが、照明や展示ケースについては、展覧会開催時の会場設営の際にできるだけ反映させるように努力しております。

本年は、昭和三十四年に石川県美術館が開館してから五十年の記念の年となります。そこでアンケートに特別の質問を設けました。「最も印象に残った展覧会」と「もう一度見てみたい作品」を答えていただくものです。旧館時代に二八二、現在の館で一九五の展覧会を開催してきましたが、どの展覧会が好みでしたでしょうか。ご来館の折に、アンケートへのご記入にご協力下さい。

久隅守景展

—加賀で開花した江戸の画家—〈第1回〉

9月26日(土)～10月25日(日)



国宝 納涼図 東京国立博物館蔵

多くのお問い合わせをいただいております「久隅守景展」の開催も、いよいよ間近となりました。そこでこれから二回にわたってこの展覧会の見所について改めてご紹介します。

初の本格的な久隅守景の回顧展 守景は、狩野探幽門下の傑出した画家として知られていますが、探幽ほど一般的な知名度はないようです。そのためか、守景を単独で取り上げた本格的な回顧展は近年ほとんど開催されませんでした。守景の初期から晩年の主要作品を網羅した今回の展覧会は、その意味でも全国から注目を集めています。

国宝《納涼図》(東京国立博物館蔵)の特別公開 守景の名前は知らなくても、テレビや新聞など、どこかで国宝《納涼図》をご覧になったかたは多いのではないのでしょうか。守景といえは《納涼図》といわれるように、この作品は、日本人の心のふるさとを描いたものとして広く愛好されています。今回東京国立博物館の御厚意により、この《納涼図》が旧館で公開されてから四十四年ぶりに、全会期をとおして公開されます。

守景作品の国宝、重要文化財をすべて展示

守景は、日本の絵画史上無視できない存在です。そのため、現在守景の作品は国宝に一点、重要文化財に三点指定されています。今回は国宝《納涼図》と、重文の《賀茂競馬・宇治茶摘図》(大倉集古館蔵)、《四季耕作図》(京都国立博物館蔵)および当館蔵の同名作を同時に鑑賞できるまたとない機会です。

ミュージアムレポート

キッズプログラム

「気分は大名」

毎年、百万石まつりの時期に合わせて前田育徳会尊經閣文庫分館に展示されている、加賀藩前田家歴代藩主の甲冑や陣羽織。六月十四日(日)に行われたキッズプログラム「気分は大名」は、この展示の鑑賞と、実際によりい・かぶとを身につけてもらい、その役割や構造を知ってもらおうという企画です。

今回、身につけていただいた鎌倉時代末から普及しはじめた「当世具足」と呼ばれるよろい・かぶとは、身体の各部をすきまなく守るための7つのパーツでできています。子どもたちには思っていた以上に重かったようで、身につけるなりすぐに「もうだめ」と脱ぐ子もいました。また、「武士たちはこんな重いものを身につけて戦をしていたんだなあ」と感想用紙に書いてくれた子もいました。多くの子どもたちは身につけると嬉しそうな表情を見せ、刀に手をかけた凛々しいポーズなどをカメラに納めてもらっていました。おじいちゃん・



ハイ、ポーズ!

おばあちゃんを含めたご一家で来観された方もおられ、よろい・かぶと姿の子どもたちの記念撮影は、家族の思い出の一コマにしていただけたのではないのでしょうか。

今回この講座に参加してくれたのは12人、男女の割合も半々でした。今、若い女性の中では、戦国時代が人気だとか。この体験講座でもその人気ぶりの一端が伺えた? 講座となりました。



作者は院展同人として「面構えシリーズ」などで確固たる地歩を固めた閨秀画家です。

この作品では富士山の風景を平面的な色面と線で捉えて空間を無視し、また大胆に単純化された雲や樹木を配し作者独自に、様式化されており、強烈な個性が感じられます。

富士山というテーマは伝統的に日本画家なら一度は挑戦したいと思うモチーフですが、この作品ではリトグラフという版画の技法で描かれています。

作者は明治三十八年北海道札幌に生まれ、大正十五年女子美術専門学校日本画科を卒業しました。横浜市の小学校の美術教師として教鞭をとりながら日本画制作に苦闘し、昭和五年第十七回院展初入選。その後は、二十一年、二十三年、二十五年、二十七年で日本美術院賞を、二十六年出品で奨励賞をうけ、昭和二十七年同人に推されています。

また愛知県立芸術大学で教鞭をとり後進の指導にも当たっていました。

次回の展覧会

| 前田育徳会尊経閣文庫分館 | 第2展示室 (古美術) | 第3展示室 (近現代工芸) | 企画展示室 |
|---|--|-----------------|--|
| 「本阿弥光悦の手紙」 | 「琳派の精華」 —巨匠たちの競演— | 「鴨居玲」 —LOVE— | 「古代カルタゴとローマ展」 8月29日(土)～9月20日(日) |
| <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block;">会期：8月27日(木)～9月23日(水・祝)</div> | | | ご利用案内 |
| <p>—— 8月の休館日は24日(月)～26日(水)です ——</p> | | | コレクション展観覧料 一般 350円(280円) 大学生 280円(220円) 高校生以下 無料 ※()内は団体料金 今月の開館時間 午前9:30～午後6:00 (土曜日は午後7:00) カフェ営業時間 午前10:00～午後7:00 |
| 石川県立美術館だより 第310号 2009年8月1日発行(毎月発行) | 〒920-0963 金沢市出羽町2番1号 Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550 URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/ | | |